自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：デイケアセンター いわき大原　　作成者：小林 典子

作成日：2026 年 3 月 28 日　　運営推進会議における評価実施日：2026 年 2 月 16 日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	業務ミーティング等において唱和し共有している		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C	コロナ禍より地域のお祭りも中止になり、交流の機会が無く行えていない		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	意見を取り入れサービス向上に活かせる様努めている		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	連絡を密にとりあってはいないが、情報の共有は行えている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束委員会にて意見交換を行い日々のケアに取り組んいる	B	知識の向上を図り職員間で共有するなど取り組んでいる
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	B	虐待防止委員会が中心となり、全スタッフ虐待について学ぶ機会を設けている職員同士、注意し合える環境作りを行っている	B	制度を理解し、職員だけではなく、家族等に対しても周知するなど防止に努めている
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	権利擁護について内部研修様で学ぶ機会を設け活用出来るよう努めている		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	入居希望時や契約時に説明を行い不明な点、不安点が無いか確認している		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	入居者様との普段の会話や家族への聞き取り等によりスタッフ間にて話合いケアや運営に反映出来る様努めている	B	チラシ、広報誌、面会、電話など意見を反映され耳を傾けている姿勢がある
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	会議や日々の申し送り等で意見・提案を聞き運営に反映している必要に応じて面談も実施している		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	話易い環境作りに努めている個々の努力、実績を把握し、向上心を持ち続けられる様努めている	B	働きやすい環境作りに心掛けている
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	C	毎月研修を行い、個々に応じたスキルアップに努めている	B	職員育成に対し内、外部問わず研修会、OJTなど取り組んでいる
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	グループホーム協議完に参加する事で同業者との交流に努めサービスの質の向上に努める		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	花壇の野菜を収穫したり、出来ることを声かけし一緒に行うことで関係を築いている		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	病院への通院、面会にて家族や馴染みの人との関係が途切れない様支援している		

ニチイ学館

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：デイケアセンター いわき大原　　作成者：小林 典子

作成日：2026 年 3 月 28 日　　運営推進会議における評価実施日：2026 年 2 月 16 日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	日常の会話や表情から、情報を共有し相手の立場に立って検討することで一人ひとりの望む暮らしを把握し支援している		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	担当者会議を通して職員間で意見を出し合い、家族との連絡にも必要なときには、電話連絡している。	B	計画を一人一人に対し作成している
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	スタッフ間で話し合い記録に残している	B	常に記録に対して意識を持ち情報を共有している
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	家族と相談したり、希望に応じて福祉用具の説明をしたり、ニーズに応じた支援に取り組んでいる		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	現状においては、外部との接触が難しい為行えていない		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	医療連携、往診を通じて支援している		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	入院の際、情報交換や相談を密に行い、入居者様・ご家族が安心して頂ける様支援し、早期退院が出来る様努めている。	A	終末期のケースを対応することもあり医療との連携は積極的にとりくんでいる
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	契約時にはご家族へ、「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し、理解・同意の下、支援している。	B	終末期のあり方が変化している。状況にたいして柔軟な対応をしている
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	救命講習受講の案内を行ったり、受講できなかったスタッフに勉強会を行ったりし、実践力が身に付けられるよう取り組んでいる。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	消防立ち合いの下、年2回の避難訓練、消火訓練を行い又毎月消防訓練を行うことで避難方法を身に付けている。今後地域との協力も視野に入れたい	B	BCPに限らず緊急体制の仕組みをしっかりしている

ニチイ学館

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：デイケアセンター　いわき大原　　作成者：小林　典子

作成日：2026　年　3　月　28　日　　運営推進会議における評価実施日：2026　年　2　月　16　日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	入居者の思いを尊重した対応を心掛けている。排泄に関する声掛けは、小声で行う等の対応をしている	B	認知症の方々に対し安全を考慮しながら、尊厳の保持に努めている
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	一人ひとりの生活リズムを大切にし、希望を把握出来る様日頃からコミュニケーションを図るよう努めている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	日頃の会話から好みを伺ったり、季節感を取り入れたりし、誕生日には本人の食べたい物をメニューに取り入れるなど楽しい食事が出来る様取り組んでいる。	B	食の生活を楽しめる空間作りに取り組んでいる
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	一人ひとりの状態と嗜好を把握し、栄養バランス・水分が確保出来る様支援している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	食前体操等により、機能を維持して頂けるよう支援している。起床時、食後は声かけにて、歯磨き、うがいを行っている。	B	毎食毎に清潔保持、支援に取り組む事が必要
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個人の習慣や様子から声かけ・誘導しトイレでの排泄を支援している。	B	個別化の取り組みを重視している
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	ご本人の希望に添って入浴を支援している。又体調に配慮し声掛け行い入浴支援をしている		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	その時々の状況に応じ対応している		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	薬の説明書をファイルし、スタッフが薬の効果等を理解できるよう工夫している。又確実に服薬が出来るよう薬剤師の方に相談・助言を頂いている	B	努めている
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	食事の後片付け・洗濯物を畳む等、一人ひとりの力を活かせる環境を支援している。又、散歩・花壇作りや野菜作り等、楽しみのある日々が過ごせる様支援している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	コロナ禍より外出は行えていないが近隣の散歩等は、状況を見ながらおこなっている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	お小遣いを預かっている。ご本人の希望に応じて小遣いでの買い物を支援している		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	ご本人・ご家族の希望に応じ、電話を取り次いでいる。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	入居者様の作品や季節の壁飾りを作成し飾っている。居室・共有空間の清潔と温度、光調整を行い快適に生活して頂けるよう支援している	B	季節感が感じられるように配慮している

ニチイ学館

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ﾃｲｹｱｾﾝﾀｰ いわき大原　　作成者：小林 典子

作成日：2026 年 3 月 28 日　　運営推進会議における評価実施日：2026 年 2 月 16 日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	帰宅願望が強い時には傾聴し、気分転換等図り、寄り添うよう支援している		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	面会時に、昔の様子を尋ねる等しケアに努めるいる		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	医療連携との連携を図ることで日々のケアに努めている	B	本人らしい生活の支援をしている
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	今までの生活を理解し利用者様のペースにて生活出来るよう支援している		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	B	居室に写真を飾ったり、馴染みの椅子等使用されている	B	孤独感を除去し穏やかに暮らせるよう支援している
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	C	お花見にて、戸外にでかけることは、あるが、催事には参加出来ていない		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	C	食器拭きや洗濯たたみ、新聞折りなどをおこなわれている		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	C	余暇活動（トランプ・かるた取り等）を行うことで、他者様と会話し楽しく生活できる様努めている	C	職員数が増加することで個別対応の充実にもつながる
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	C	コロナ禍以降交流は、出来ていない		
49	総合	本人は、このGHにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	C	一人一人に寄り添ったケアを行う事で安心した生活が送れるよう努めている	B	安心、安全な暮らしが提供されている

総評

認知症の方々に対し知識の向上と経験の向上をしより良いサービスを提供されている
医療、介護、福祉と連携されて、地域と連携されて地域にも開かれた場とする努力が感じられる

毎月の避難訓練はもとより誕生会、お花見、ひな祭り等施設の限られた空間にも関わらず季節の移り変わりを利用者様に感じてもらうようにレクリエーションを通して行われている

課題があれば職員、利用者さん家族と相談や連絡を取り合う事で相互の信頼関係築くことを心掛けており利用者さんに寄り添った活動に努めていることが伺える

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

人材不足は利用者様の質の向上や個別化充足につながってしまう
職員不足とならないように事業所の支援があると良い

参加者サイン欄

ニチイ学館

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：チイケアセンター いわき大原　　作成者：小林 典子

作成日：2026 年 3 月 28 日　　運営推進会議における評価実施日：2026 年 2 月 16 日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述